

不快感を感じるワーストワンは？

人間の五感(視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚)のなかで、一番不快感を感じるのはどれだと思いますか？
それは「嗅覚」です。

例えば、これから暑くなり汗をかくことも多くなりますが、電車の中で隣の人から汗臭いにおいがすると、思わず鼻をつまみたくなり、時には席を立ちその場から離れてしまうこともあります。私たちは「臭い」にとっても敏感なのですが、これには訳があります。



太古の昔、まだ人間が狩りをして暮らしていたころ、捉えたマンモスの肉や木の実や穀物などを保存し、この保存した食物が腐っていないか、食べて大丈夫かは「臭い」をかいで判断していました。

現代でも、冷蔵庫に入れっぱなしだった食品を食べられるかどうか、自然と臭いをかぎ、腐った臭いがしなければ大丈夫かなと判断することはよくありますよね。

太古の昔の人にとって「臭い」を嗅ぐというのは、腐ったものを食べてお腹を壊したり、最悪は死に至ることを防ぐための重要な手段だったのです。そこから、命を守るために「臭い」に敏感なのだとも言われます。

また「におい」は、「匂い」とも「臭い」とも書きますが、人間に快感を与えるものを「香り」とか「匂い」と言います。一方で、不快なにおいを「臭気」「臭い(におい・くさい)」と表現します。

西洋ではこの「臭い」への対策として香料や香水が使われましたが、古代エジプトでは、ミイラの防腐、殺菌、保存に香料が使用されたそうです。また絶世の美女と言われるクレオパトラは自分の体臭を薔薇の匂いにするために、バラ風呂を楽しんだり、香りの強いバラからとったローズオイルを肌に塗ったりしていたそうです。

ヨーロッパではお風呂と無縁の生活をしてきたことから体臭がひどく、それをかくすために香水文化が生まれたと言われます。日本でも、平安時代の貴族たちは毎日入浴という習慣はなく、女性の長い黒髪は月一回程度しか洗わなかったそうで、香木やお香などで髪の毛の臭いや体臭などをかくしていたとか。

人間は「臭い」を「匂い」に変えようと、様々な努力をしてきたことがわかりますね。

私たちも、自分の臭いが周りの人に不快感を与えないように、汗対策のシートや消臭スプレーを使うなど、気を配りたいものです。また、今はマスク生活なのでニンニク料理等も平気で食べている方も、コロナ収束後マスクを外せるようになった時には食べるタイミングにも気をつけましょう。

